

【育英小学校の中郷太鼓踊り伝承活動の取組】

1 学校名

薩摩川内市立育英小学校

2 学年・人数

6年生(計64人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成28年7月～12月 ふるさと・コミュニケーション科(本校体育館)

※奉納踊り(1年おきに実施)の練習は、夏休み中に校区公民館で実施

(2) 発表の日時・場所

平成28年8月28日(日) 諏訪神社での奉納

平成28年12月2日(金) 学習発表会(本校体育館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

中郷太鼓踊り(ちゅうごうたいこおどり)

(2) 由来

島津義弘公が、朝鮮への出陣祝い、凱旋祝い、あるいは農民の士気を鼓舞するための踊りとして作った舞と言われ、現在では中郷虚無僧踊りと1年交互に諏訪神社に豊作・郷土の発展と平和を祈願して奉納されている。

(3) 構成等

隊形は、小太鼓2人、大太鼓12人前後、鉦12人前後、歌い手1人から成り、小太鼓2人を先頭としてその後に鉦が2列縦隊に続き、大太鼓は両脇に縦に並び4列縦隊の態勢から始まる。

5 保存会や地域との連携の具体

中郷太鼓踊りは昭和39年～42年頃まで踊られていたが、その後一時途絶えていた。昭和53年に育英小学校が創立100周年を迎えたのを機に、中郷太鼓踊りを復活させるとともに、翌年昭和54年に保存会を設立した。

育英小学校では、ふるさと・コミュニケーション科に中郷太鼓踊りの伝承を位置付け、保存会の方を招へいして11月から練習を積んでいる。練習の成果は学習発表会で披露し、保護者や地域の方々にも見ていただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

中郷太鼓踊りの伝承に当たり、太鼓踊りの由来や歴史について事前に学習し、興味・関心を高めて取り組むようにしている。事前打合わせは10月に行うが、保存会のメンバーは長寿会や地域役員、青パト隊のメンバーと重複している方が多いため、各種会合に参加した際にこまめに打合わせができるようにしている。

また、今年は、2年に1回の諏訪神社への奉納のため、15人程度の児童が8月から練習を行っているため、これらの児童を中心に、その後の練習に取り組んでいる。

7 取組の様子(練習状況, 発表の場)



【太鼓踊り保存会の方々による練習】



【諏訪神社での奉納】



【学習発表会での披露】

8 参加児童・保存会・教職員等の感想

【6年児童】

- ・ 練習は大変だったけど、保存会の方が丁寧に教えてくださったので、なんとかできるようになりました。
- ・ この踊りが400年以上も続いているということに驚きました。
- ・ 太鼓踊りがこれからもずっと続いてほしいと思いました。

【保存会】

- ・ 子供たちの覚えが早くて驚きました。いろいろな踊りのパターンがあるので、指導は難しかったです。子供たちが一生懸命で教え甲斐がありました。
- ・ これからも子供たちに教えていきたいです。

【教職員】

- ・ 伝統行事を引き継ぐ子供たちの一生懸命さに感動しました。
- ・ 保存会の方々が、親身に御指導して下さるのでありがたいです。
- ・ 今後、地元で踊りの継承をしてくれる人材が育つことを期待します。